

ビオトープを守っていくために

ビオトープの主役は自然の力だけで生きる動植物。
私たちの方がそこに足を踏み入れている、という気持ちで、そっと見守ってください。

このようなことはご遠慮ください

- ゴミのポイ捨て
 - 食事の持ち込み
 - 花火、たばこなど火気
 - 自転車やバイクなどの乗り入れ
 - 釣りやボール遊び
 - …などの
環境を悪くすること
- 外部の生きものの持ち込み
 - 動植物の採取
 - ペットを連れての入園
 - 生きものへのエサやり
 - …などの
動植物の生態を脅かすこと



【アクセス】
小倉駅から
車で約30分
(都市高速利用)

- 所在地 北九州市若松区響町一丁目 TEL 093-751-2023
- 入園料 一般100円、小・中学生50円(ネイチャーセンター入館無料、園内有料)
※ 団体料金(30人以上) 一般80円、小・中学生40円
- 開園時間 9時～17時(入園は16:30)
- 休園日 毎週火曜日(ただし、火曜日が祝日の場合は翌日)、年末年始(12/29～1/3)
- 駐車場 無料

響灘 ビオトープ

自然のゆりかごに生きる。



時といのちが創った


日本最大級のビオトープ

響灘ビオトープは長い年月をかけて廃棄物処分場にできた日本最大級のビオトープです。


何もなかった埋立地に植物が生え、そこに昆虫が育ちました。さらにはそれを捕食する生き物が集まりました。デコボコの地形には雨水がたまって湿地や池となり、水鳥に卵が付いてきたのか、いつしかメダカも泳ぐようになりました。

その間、およそ30年。歳月と生命の営みが、この生態系を作り出しました。


季節ごとの自然の気配を感じてください。



チュウヒ
絶滅危惧IB類



鳥が落としたフンに残った種から
こんな木が生長しました。



ベッコウトンボ
絶滅危惧I類

〈あゆみ〉

昭和55年	埋立開始
昭和61年	埋立完了
昭和62年～	現状保全
平成16年～21年度	基盤整備(覆土)

昭和62年当時の状況



平成24年最新状況



水辺の鳥たちに そっと近づいてみよう

湿地



観察デッキ

クロツラヘラサギ (CR)

ヨシなどが繁茂する池には時折、水鳥が現れます。ここには鳥が運んできたメダカも生息しています。

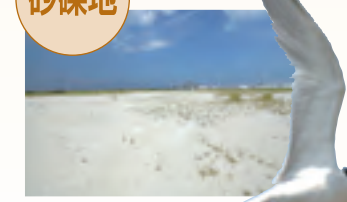


野鳥観察施設

見晴らし台から ビオトープ全体を見渡そう



砂礫地

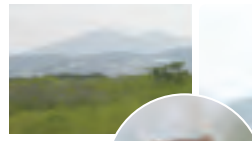


コアシサシの繁殖を目指し、約1haに砂の上に貝殻をまいて営巣地を作りました。

コアシサシ (VU)

草原

ミサゴの営巣地としてポールの上に巣を設営しています。



ミサゴ (NT)

カヤネズミ 県 (VU)



目の前に広がる
生命の循環を
感じよう

ビオトープへの
はじめの一步はここから

ネイチャー
センター



響灘ビオトープに生息する生きものや、当園のなりたちを、パネルなどで分かりやすく展示しています。見どころの最新情報もお知らせしていますので、まずはここで理解を深めると、より充実した見学が楽しめます。また、自然環境の保全に取り組む市民やNPOなどの活動拠点として機能します。



内部(イメージ)

よく見てみよう!

生きものの姿は見えなくても、くらしの痕跡を見つけることで、何がいたのかを想像してみよう。



ペレット(鳥が未消化物を吐き出したもの)の中に貝殻が発見。タニシを食べる水鳥がいたのかな?



白い羽毛が落ちていた。コサギかな。



側溝に流れ込んだメダカ。数メートル先は干上がっている。雨が降らなければこのまま死んでしまうだろう。ここにもひとつの生態系。

ビオトープで見られる生きものたち



環境省 絶滅危惧種 カテゴリー

- 絶滅 (EX)
- 野生絶滅 (EW)
- 絶滅危惧I類 [絶滅の危機に瀕している種]
- 絶滅危惧IA類 (CR) [ごく近い将来における絶滅の危険性が極めて高い種]
- 絶滅危惧IB類 (EN) [IA類ほどではないが近い将来における絶滅の危険性が高い種]
- 絶滅危惧II類 (VU) [絶滅の危険が増大している種]
- 準絶滅危惧 (NT) [現時点では絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種]